

事務事業名	「本物の出会い 栃木」観光キャンペーン推進協議会参画事業			担当	産業部 商工観光課 観光係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			増補版施策名		
施策名	4	観光の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成12年度～）		
予算科目	1. 一般会計	7. 商工費	1. 商工費		3. 観光費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	「本物の出会い 栃木」観光キャンペーン推進協議会は、栃木県、市町村、観光関連団体、東日本旅客鉄道大宮支社、東武鉄道、東日本高速道路等が一体となり、栃木県への観光誘客の増大と定着及び観光産業の振興を図ることを目的に設定された。 栃木県観光のより一層の振興と地域経済の活性化を図るため協議会に負担金を支出している。また、県外での観光キャンペーンとして、新宿、大宮、横浜等での物産品の販売に参加する他、県がキャラバン隊を派遣し仙台、茨城、福島、群馬、千葉等での観光PR活動をしている。さらに、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等で観光PRを図っている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 31年度実績 負担金支払に伴う事務会議への出席、観光キャンペーンへの参加（新宿、大宮、水戸、浦和等） DC誘致を推進するための活動に参画。県東地域分科会への参加。東京での旅行エージェント向け販促会への参加。県パンフレット素材提供及び編集会議。県東地域独自事業の検討及び実施。観光データベース作成のためのデータ提供 2年度計画 DC本番の年度であるので、更なる観光誘客の増大と定着及び観光産業の振興を図るとともに、特別イベントの企画立案や受け入れ体制の整備を行う。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
	ア	負担金額		200	200	200			
	イ	会議回数		16	16	16			
	ウ	観光キャンペーン等の回数		4	4	4			
	エ								
	オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 「本物の出会い 栃木」観光キャンペーン推進協議会	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
	ア	「本物の出会い 栃木」観光キャンペーン推進協議会の会員数		78	78	78			
	イ								
	ウ								
	エ								
	オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 栃木県と市町村等が一体となって、観光振興を図る	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
	ア	栃木県の観光客数		90,927,577	92,767,524	95,436,000			
	イ								
	ウ								
	エ								
	オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 真岡市の観光振興を図る ・長計目標値（観光客入込数） H29 294万人 H30 297万人 H31 300万人	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	
	ア	真岡市を訪れた観光客数		2,912,127	2,990,649	2,957,327			
	イ								
	ウ								
	エ								
	オ								
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	200	200	200	0	0
	事業費計(A)			千円	200	200	200	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	1	1	0	0	
		延べ業務時間	時間	200	200	200	0	0	
		人件費計(B)	千円	831	830	834	0	0	
		トータルコスト(A)+(B)			千円	1,031	1,030	1,034	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	やすらぎの栃木路共同宣伝協議会への参加によって、市単独では実施できない観光キャンペーン等への共同宣伝効果を目的に平成12年から参画している。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成20年3月15日の北関東自動車道・真岡インターチェンジの開通にあわせ首都圏からの誘客を図っている。 合併により負担金が20万円となり5万円増額となった。 平成21年度より、真岡木綿とSLの広告掲載料を協議会が負担し、水戸市内、さいたま市内のバス車外広告を掲示している。 平成25年度より、DC誘致のための事業が開始され、平成30年度に栃木県でのDC誘致が決定した。 平成26年度より「本物の出会い 栃木」に協議会の名称を変更した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	平成30年度に栃木県にDC誘致が決定したため、平成29、30、31年度と3か年にわたり観光誘客事業に取りくむこととなった。